

世田谷区立千歳台小学校
校長 仙北貴紀 様

令和7年度 千歳台小学校関係者評価委員会 提言書・改善策

船橋希望学舎 世田谷区立千歳台小学校
学校関係者評価委員会 委員長 加藤 久実子

1 活動日程と活動内容

令和7年度における千歳台小学校関係者評価委員会は以下の日程で行いました。

令和7年 7月 3日 関係者評価委員会委員長選出 学校経営方針の説明
千歳台小学校独自項目の設定 情報交換
令和7年 9月25日 回答率増加対策検討 情報交換
令和7年 10月17日より アンケート実施
令和7年 12月11日 学校関係者評価 集計結果の分析と考察
令和8年 1月29日 千歳台小学校への提言完成

2 アンケート調査の概要

■アンケート調査実施日

令和7年10月17日（金）～30日（木）（Webでの回答）

■アンケート調査対象者

児童	5年生	99名
	6年生	107名
保護者	1年生	78名
	2年生	93名
	3年生	92名
	4年生	105名
	5年生	99名
	6年生	107名
	合計	588名

■回収数（回収率）

児童	5年生	81名	(82%)		
	6年生	96名	(91%)		
				R6	R5
保護者	1年生	62名	(80%)	←70%	50%
	2年生	71名	(76%)	←59%	61%
	3年生	48名	(52%)	←68%	53%
	4年生	67名	(64%)	←68%	43%
	5年生	51名	(56%)	←63%	46%
	6年生	58名	(54%)	←60%	43%
	合計	357名	(62%)	←65%	48%
地域		17名			
		26名	(153%)	←82%	

世田谷区では、提出方法が変更され電子データでの提出となり、一昨年回収率が低かったため、昨年度、アンケートを行う目的や意義などを伝えるオリジナルの手書きポスターを作成した。認知度を高めるにそのポスターを運動会で掲示したり、「すぐーる」にて何度も伝えたりして、今年度も昨年度並みの回答率は62%であった。（前年度は65%）

3 評価報告

学校関係者評価委員会において、令和7年度の学校関係者評価アンケートの結果をもとに総合的な評価を行いましたので、以下の通り報告いたします。

(1) 【学習指導】

- ・「授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある」の項目で、肯定的な評価の児童は92%、保護者は87%であった。

教師が一方的に説明するだけの授業ではなく、子どもたちの話し合いの中から気付かせたり、課題を解決させたりする授業が心がけられている。今後も、子どもたちの主体性を大切にした授業を継続することが必要である。

- ・ICT機器の利用面では、「映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」の項目で、肯定的な評価の児童は85%、保護者は81%であった。

授業での意見交流や課題提出、児童の係活動や連絡の伝達など、様々な使い方が広がっている。学習の記録としても残り、とても有意義である。

一方、新しいタブレットになり新たな故障が出てきている。使い方の指導をしている。また、タブレットの長時間使用や情報モラルについては課題があり、保護者の協力を得ながら、細心の注意を払っていく必要がある。

(2) 【生活指導】

- ・学校での過ごし方やルールについて、「学校は指導している」児童は90%、保護者は88%、「子どもたちは理解している」児童は92%、保護者は81%であった。

昨年度70%から90%へ大きな変化が見られた。担任の指導、全校朝会での指導、すぐやるでの発信の成果と思われる。今後も、何のためにルールがあるのか、みんなが守ることによってどのようなよさが生まれるのか、ルールの意義について子どもたちに考えさせたり、伝えたりしていくことを継続していく。

【地域の方から見た生活・安全】

- ・「子どもは礼やあいさつをしている」「丁寧な言葉遣いをしている」は、共に62%が肯定的な評価であった。

昨今の社会情勢からあいさつをすることを踏み止まらせてしまう面もあるかもしれない。大人からあいさつを続けることで、子どもたちを見守っていきたい。

「丁寧な言葉遣い」が11%悪化している。YouTubeなどのインターネット、ゲーム、テレビなどからくる子どもたちの使う言葉の乱れは、昨今の話題でもあり、本校の子どもたちも例外ではないということだろう。言葉を大事にした教育を続けてほしい。

- ・「登下校」のルールを守っているのは58%、「公園」のルールを守っているのは46%が肯定的な評価であった。

「登下校のルール」9%、「公園のルール」14%、昨年度より低下した。

地域の方から学校へ連絡がくることもあるようである。子どもたちに規範意識の低下が見られないか心配である。また、子どもたちの遊ぶ場所が限られているのも現状であるが、ルールを守って安全に生活したり、遊んだりしてほしい。

信号のない交差点が多い学区である。その危険性や、なぜ下校コースが決められているのか、公園のごみ問題など、子どもたちに考えさせていくことが必要ではないか。

(3) 【学校行事】

- ・「学校行事は、子どもにとって楽しい」の項目で、児童・保護者共に肯定的な評価は、90%前後、「学校行事は、達成感がある」の項目も、児童82%、保護者90%、地域の方の「学校行事の内容は充実している」は96%、と高い評価であった。

児童の楽しい・達成感が下がった。その年その年の子どもたちの実情に合わせて、微調整しながら実施することが必要である。

運動会や展覧会、遠足、たてわり班活動など、千歳台小学校では、特別活動・学校行事を通して、非認知能力の育成も図っている。今後も、子どもたちにとって意義のある学校行事の実施を継続してほしい。

(4) 【キャリア教育】

- ・「生き方や将来のことについて考える授業をしている」の項目で、児童76%、保護者49%の肯定的な評価であった。昨年度より若干上昇し、担任の指導、学校だよりなどでの広報の成果と思われる。しかし、保護者の無回答はまだ26%もいる。

今後も子どもたちの将来を見据えた教育をお願いしたい。

- ・まだ“キャリア教育＝仕事”というイメージがあるのではないか。
社会科見学や美術鑑賞教室などの校外での学習、校内での学習、様々なものが“キャリア教育”である。例えば、それらのしおりやお手紙、教材プリントなど、いろいろなものに“キャリア教育”というハンコを押してはどうでしょう。
- ・“キャリアパスポート”の主旨を再度、周知してはどうでしょう。卒業式での一言は、小学校でのキャリア教育の集大成であり、記録として残せたらいい。
- ・子どもたちは、どこかのタイミングで、親と子で思っていることが違うことが出てくる。やらせすぎによる子どもたちのエネルギー切れなのか、キャパオーバーなのか。子どもたちの将来を見据えて、親も学校も関わっていくことが大切である。
- ・小学校で習うことをしっかりと身に付けていけば、生きていけるのではないか。そう考えたときに、子どもたちには自分の未来を意識し始める瞬間があり、そのスイッチをだれが押しあげられるのか。そのような意識を、親も学校ももってほしい。
- ・子どもたちは、まず“家族”で社会を学び、次に“幼稚園・保育園”、そして“学校”で社会を学び、社会へ出ていく。多様な家族から一つの社会へ、という見方もできる。

(5) 【教職員】

- ・「丁寧に指導している」の項目は、児童89%、保護者86%の肯定的な評価であった。

様々な教育課題がある中で、色々に対応いただいている。日々、熱心に学習指導や生活指導に当たってくださっているという声を聞いている。

- ・「相談できる」の項目は、児童60%、保護者79%の肯定的な評価であった。

一方で、先生方が多忙なため、児童がなかなか話しかけられない、相談がしにくい状況と考えられるのではないかと。引き続き、児童との人間関係づくりに努めてほしい。

先生たちに相談できない児童が31%いる。昨今の話題から、特に高学年の子どもたちのことが心配である。学校以外に彼らが思いを伝えられる場所はあるのであろうか？“居場所”はあるのだろうか？ できる限りのケアをしてあげてほしい。

(6) 【学び舎の活動】

- ・「学び舎による連携や交流活動が行われている」の項目は、肯定的な評価の保護者は59%であった。「分からない」と回答した保護者が19%であり、キャリア教育同様「分からない」と回答した割合が高かった。

「分からない」の回答が9%減った。学校だより、ホームページでの発信が増えた成果と思われる。

ただ、船橋希望中学生とのあいさつキャンペーンを見ることはあるが、保護者にとっては、自分の子どもの学年によって関わり方に違いがあり、情報の受け取り方にも差があることも考えられる。児童・保護者にとってはわかりにくいのであろう。

(7) 【情報提供】

- ・「様々な便り、ホームページなどで、保護者に情報を提供している。」の項目は、肯定的な評価の保護者は90%、地域の方は92%であった。また、保護者の「学校の重点目標を理解している。」46%が肯定的な意見であった。

基本的には、日々の学校の様子、子どもたちの様子がよく伝えられていて、とてもありがたい。但し、個々には十分な情報提供がされていないこともあり、無理なく、可能な限り取り組んでいただけるとうれしい。

また、「学校の重点目標」に限定すると、理解している割合が昨年度より23%減少した。学校だより、HPでの発信を増やしていけるとよい。

(8) 【家庭との連携】

- ・「学校公開にすすんで参加している。」は、90%の保護者が該当していたが、「学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで参加している。」の項目は、60%であった。

共働きなどで保護者も多忙となってきたため、なかなか参加できない様子である。そのため、せめて学校公開は、と参加できているのではないかと。

(9) 【地域との連携】

- ・学校は、「地域の人や施設を教育活動に活かしている。」「地域活動などに協力的である。」は、保護者の80%が肯定的な評価である。

保護者に授業のお手伝いに参加してもらったり、先生方がめばえまつりなどで力を貸してくれたりしている。可能な範囲で工夫して取り組んでいただいている。今後も継続してほしい。

(10) 【学校の安全性】

- ・「安全な学校づくりをすすめている。」は保護者78%、「子どもに安全に関する指導をしている。」は91%の保護者が肯定的な評価である。

毎月の避難訓練やセーフティー教室などで、子どもたちの「自助」の力を高めさせている。自分自身の安全を守ることがまず大切であるので、今後も継続してほしい。

(11) 【学校重点目標】

- ・「学校の重点目標を理解している」保護者は45%である。

行事のめあてと結び付けたり、キャッチコピーのような覚えやすいものにしたり、子どもたちが言えるように“重点目標かるた”を作ったり、保護者会の前に放送したり、学校だよりの同じ場所に同じ内容で載せ続けたり、ホームページに資料を載せたりしてはどうでしょう。

(12) 【その他】

- ・「学校が好き。」に対して否定的な児童は30%ほどいる。

嫌なことがある、などいろいろな理由があるかもしれない。一方では、学校より家の方が魅力を感じるもの（携帯電話・スマホ、インターネット、ゲーム機など）がある、という面もあるのではないか。

情報過多な世の中、子どもたちには判断しきれないことが多いのではないか。“学校だけじゃない”という点が、“個人の選択”“子どもの気持ち”ということから安易にならないように、子どもたちの様子をしっかりと見ていくことが、学校にも家庭にも必要である。

一人ひとりの話を聞き、状況を把握し、広く大きな視点で子どもたちの将来を考えていくことが大事である。

※ 上記のように、評価委員と校長とで提言に基づき、次年度へ向けての改善策を検討してきた。